

自転車推進社会に向かって

今年7月、西荻窪西駐輪場が今年度JR都市開発に返還された結果、400台分以上確保されていた一時利用駐輪場が70台に減少。一時利用者の「駐輪難民」状態が発生していると指摘。民間に事業を移管してデジタル化・効率化が進む一方で、地域のニーズに沿った駐輪場対策が置き去りになってはいないか。駐輪場で働くシルバーサービスの方々の労働状態は大丈夫か。自転車推進社会、自転車フレンドリープロジェクトを進める区には、区民の声に応える駐輪場対策をJR都市開発側へ明確に伝え、更なる協力を求めていくべきと要望しました。



横浜市「サーキュラーエコノミーPlus」の視察

10/24は、サーキュラーエコノミーPlus(プラス) の取組を続ける横浜市へ視察に行ってきました。370万人都市の横浜市は大きく4地区18区があります。それぞれの地域で行政、リビングラボ、企業、そして議会が参加して公民連携の力を発揮。地域の課題をサーキュラーエコノミーPlus(脱炭素+経済+人々)という活動で具体的に解決していくという、ワクワクする共創社会の在り方を目の当たりにしました。都市科学研究室のデータ分析を基に時代の転換を見据えた横浜市の取組に学ぶこと多し！杉並にも取り入れたい！



ハラスメント防止条例の必要性

Q:杉並区議会は議会中非常に激しいやりとりがある。管理職への昇任意欲を持っている職員はどう受け止めているのか。

A:議員は区民の代弁者。しっかり受け止め誠実に対応すべき。(略)一方で不安の声が出ているのも事実。意欲ややる気の低下を招かないか強い懸念がある。お互いのリスペクトを忘れずに闊達に議論していくことが必要。

Q:議会と行政は立場は違っても「区民生活の向上と、区政を前に進めると同じ目的に向かって歩くべき存在」と確認できた。区政に関わるすべての人たちが、尊厳や人格を不当に傷つけられることなく、能力を十分に発揮でき、闊達な議論を交せる良好で健全な職場環境を整えるために、あらゆる方向性を包括する「ハラスメント防止条例」を区側と議会が共に検討していくべきでは？と提案しました。

ゼロカーボンのまち、杉並へ

ブランシャール明日香

杉並区議会議員 緑の党グリーンズジャパン

カワセミ通信

VOL.5 (2024.10.30 発行)

区有施設の電力調達 再エネ100%化に向けて躍進

2週間にわたる決算特別委員会で、ブランシャールは杉並区のエネルギー政策について多方面から調査、質問をしました。詳細はP.2~3へ▶

一般質問 (9/11)

【街路樹から都市のみどりを考える】
街路樹は私たちの「共有財産」。「緑の日傘」である街路樹の役割と維持管理にかかる税金など、街路樹対策について質問しました。主に東京都の街路樹マネジメント方針に則って管理されている区の街路樹は、強剪定によりなかなか樹冠を広げられません。一方で、海外では街路樹がインフラとしての機能を持つことが見直され、気候危機への適応策やウェルビーイングを高め、健康増進とストレス軽減に資する役割を果たしています。仙台市などを参考に、行政と業者による剪定講習会を開き技術とビジョンの更新するなど、街路樹の新しい価値を見直す必要があります。

【気候区民会議のふりかえりとこれから】
3/20から8/20までの気候区民会議が終了。4分野(エネルギー・みどり・循環型社会・交通)について参加者から33の意見提案が出されました。①今後、意見提案をどう取り扱うのか。②気候危機を一過性のイベントで終わらせないため、どのように区の政策に取り込んでいくのか。③事業化、現計画との照合、タイムスパン、予算化、条例化や予算措置の必要性…などを質問しました。

第3回定例会、決算特別委員会 が終了。生活者のための岸本区政は着実に前進中！

第3回定例会では、再エネ補助金の追加を含む補正予算の可決、子どもの居場所づくり方針(素案)の提案、ジェンダー平等審議会設置条例など、岸本区政の姿勢が反映された政策が採択されました。ケア社会・持続可能な社会の構築のため、岸本区長のリーダーシップが着実に発揮されています。決算特別委員会では、区の財政は一般会計ほか各分野で黒字化。住民税非課税世帯等物価高騰対策支援給付金の支給、杉並区パートナーシップ制度の運用を開始、給食無償化、がん検診の推進、学びの多様な学校設置検討会の立ち上げなど、細やかに生活者の目線に立った昨年度の決算は賛成多数で認定されました。

来年度予算要望を提出しました。

9/20、主に区の来年度予算要望を区長に提出。区長とはエネルギー・貧困問題や、食品ロス、ごみ減量についてなど、まだまだできることがたくさんあることを確認する、有意義な懇談の時間を持つことができました。



本会議録画 (一般質問)

明日カフェ「区政報告会」のご案内

11月17日(日) 16:00-18:00
西荻地域区民センター
第5集会室



お申し込みフォーム

ブランシャール明日香

2023年5月より杉並区議会議員
緑の党グリーンズジャパン所属
公式サイト▼
長崎県出身。カナダオンタリオ州立ヨーク大学
社会人類学部卒業。西荻窪にてカフェ・カワセ
ミビレットを経営。
〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-9
☎090-8487-5406(事務局)



カワセミ通信は、再生紙で印刷しています。



区有施設の再エネ化 一気に加速

11/1 本庁舎100%再エネ電力調達を達成！！

昨年の事務事業編では、「可能な限り再生可能エネルギーへの転換を図ります」だった方針が、今回の質疑で「**区が調達する電力は、原則として100%再エネとする**」という答弁に変わりました。とても大きな前進です！

Q：区立610施設の再エネ電力調達状況は？
A：学校30校は既に再エネを達成。残りの**32校**を早期に再エネ電力100%調達へ切り替える。

A：本庁舎に続き分庁舎**29施設**など、東京エコサービス（株）との契約分に関しては早期に再エネ化する。

上記により、**再エネ率6割、温室効果ガス削減率4割達成予定！**それでも、**2030年の目標達成のためにはこれまでより3.6倍のスピードでCO2削減を目指さなくてはなりません。**公正で迅速な見直しと電力調達切り替えを要望します。

「国際社会と将来世代に1.5℃目標の責任を果たす 第7次エネルギー基本計画改定を求める意見書」 を提出し、都市環境委員会で「継続審査」に！

現在のエネルギー対策のままでは、更なる気温上昇が予測される中、日本政府はエネルギー計画改定を議論中です。今定例会にて杉並区議会から計画改定を求める意見書を議員提案案として6名で上程しました。結果は10/16の本会議当日、急遽開かれた都市計画委員会により**継続審査**に。ブランチャーは初めて説明者という立場で答弁に立ちました。閣議決定が年内と予想される中、区議会内で早急かつ真剣に協議することが求められます。

小学校の断熱改修 室温測定結果は？

**区内3校の最上階9教室に天井断熱改修達成！
馬橋小学校、四宮小学校、松庵小学校において
計9教室の天井断熱改修を達成！**

Q：改修前と改修後の温度差は？
A：約3度（計測日は6月30日、曇天）。

せっかくなので日射による温度の差を計測すべきです。晴れた猛暑日の計測を要望しました。

断熱は子どもたちの健康を守るだけでなく電気代節約にも貢献します。学校施設のエネルギー使用量は2030までに53%の削減が必要ですが、電気使用量は増えているのが実情です！

Q：今後、どうやって使用料とCO2排出量を減らしていくつもりか？
A:LEDや断熱改修の効果に期待する。



議員提出議案第3号
国際社会と将来世代に1.5℃目標の責任を果たす第7次エネルギー基本計画改定を求める意見書
上記の議案を提出する。
令和6年10月16日
杉並区議会議長 井口 かづ子 様

提出者 杉並区議会議員 ブランチャー 明日香 同 奥田 環子 同 山本 文子 同 山本 かなこ 同 藤本 みか

2024年7月には、日本は観測史上最も暑い夏を経験しました。年内、国内で暑熱や熱中症での被害が増え、気候危機は環境問題のみではなく生存権に関わる人権問題となっています。安全確保のためにもエネルギーの自給自足が重要視されるようになってきました。2025年の気温上昇はすでに1.45℃であり、今の対策のままでは今世紀中に2.7℃前後まで上昇してしまうと予測されます。GDP28で2035年までに温室効果ガス排出量を2019年比で40%削減する必要があるとの国際合意の中、日本政府は第7次エネルギー基本計画改定の議論をスタートさせました。しかし、現状では日本全体の気候変動対策は、1℃以内に削減することができず、日本が国際的に気候変動政策において世界をリードすることが難しくなっています。1.5℃目標へ向け、国際社会と将来世代に責任を果たすため、持続可能な経済繁栄を再構築するため、杉並区議会が議案を提出し、第7次エネルギー基本計画改定に際して、以下の事項を求めます。
<以下、項目略>



<意見書 前文>

「どんな人も建物の中で暑さ寒さに苦しむことのない、まともな家に住むことは基本的人権です。」

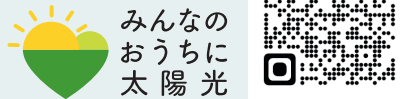
今議会・決算特別委員会では、杉並区のエネルギー政策について徹底調査質問。区の政策は段階的かつ着実に進展していることがわかりました。しかし地球温暖化対策実行計画上の2030年のカーボンハーフ目標を達成するにはまだまだ対策が必要です。がんばれ、杉並区！

杉並産工エネルギーの 創出と省エネの推進

再エネ：杉並区の再エネ助成に補正予算が追加され、申請件数は昨年の1年間に今年度の4か月分が追いつく勢い！太陽光と蓄電池を設置した、とある区民の家庭では9割の補助金支給がありました。潤沢な補助があることを区はきちんと周知してほしいと思います。

Q：初期費用は一時的な出費だが、助成金の振込みはいつか？
A：国、都、区は別時期に振り込まれる。区は1～2か月後。国と都は2～3か月後。

省エネ：エコ住宅促進助成窓補助金は工事3週間前までに要申請。国の住宅省エネキャンペーンについてもっと大々的なアピールを要望します。共同購入を促す都の「みんなのおうちに太陽光」なども周知徹底を。



生活保護世帯への助成 区営住宅の住環境

夏の熱中症や冬のヒートショック現象は住宅の断熱性能の低さが影響します。**エネルギー貧困**という考え方が浸透する欧州では低所得住宅を税金で断熱しています。東京では6/29以降、熱中症アラートは都で今年**37回**も発令し高齢者や社会的弱者が地球沸騰化の健康被害を受けています。

Q：生活保護費のエアコン出費のために**夏季加算**を検討してほしい。
A：都内自治体連盟で法改正に向けて要望を上げている。

Q：区営住宅の**窓の断熱化**の実態は？
A：現在実施していない。改修の際はLEDへの付け替えと屋上遮熱塗装のみ。

国のGX戦略では、住宅断熱化に2兆円規模の投資増額。公営住宅も対象なので、ぜひ「窓リノベ」を区営住宅の改修メニューに入れて欲しいと思います。

チャンス！ え！？再エネ・省エネ
こんなに助成金や補助金がもらえるの？！

現在、国・東京都・杉並区による太陽光パネルや蓄電池への**再エネ補助金**、国による窓リノベ断熱改修への**省エネ補助金**など多額の補助金があります。特に窓は、冬の暖房時の熱が58%流出し、夏の冷房時に熱が73%流入します。**窓の断熱**は既存住宅であっても工事は可能で、かつ大変効果的です。自宅の屋根で発電して電気代を削減し、断熱改修して気候危機対策に貢献しつつ夏涼しく冬暖かい**健康省エネ住宅**に改修することをぜひご検討ください。

住宅省エネ
2024キャンペーン

先進的窓リノベ
2024事業

クールネット
東京

エコ住宅
促進助成